

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 160-8309
 住 所 東京都新宿区西新宿1-8-3
 氏 名 小田急電鉄株式会社
 取締役社長 星野 晃司

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第9条第1項(同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。)の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	小田急電鉄株式会社		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市 麻生区上麻生1-4-1		
該当する事業者 の要	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者(任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	H	運輸業, 郵便業
	中分類	42	鉄道業
主たる事業 の内容	鉄道を使用した旅客輸送の運営		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	4,065	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO ₂

(第2面)

計 画 期 間	2019 年度 ~ 2021 年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
備 考	当社の地球温暖化対策の取組みについては、環境報告書に記載しホームページにて公表しています。 https://www.odakyu.jp/company/socialactivities/environment_report/

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
- 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
- 3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
- 4 ※印の欄は記入しないでください。
- 5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策計画

1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

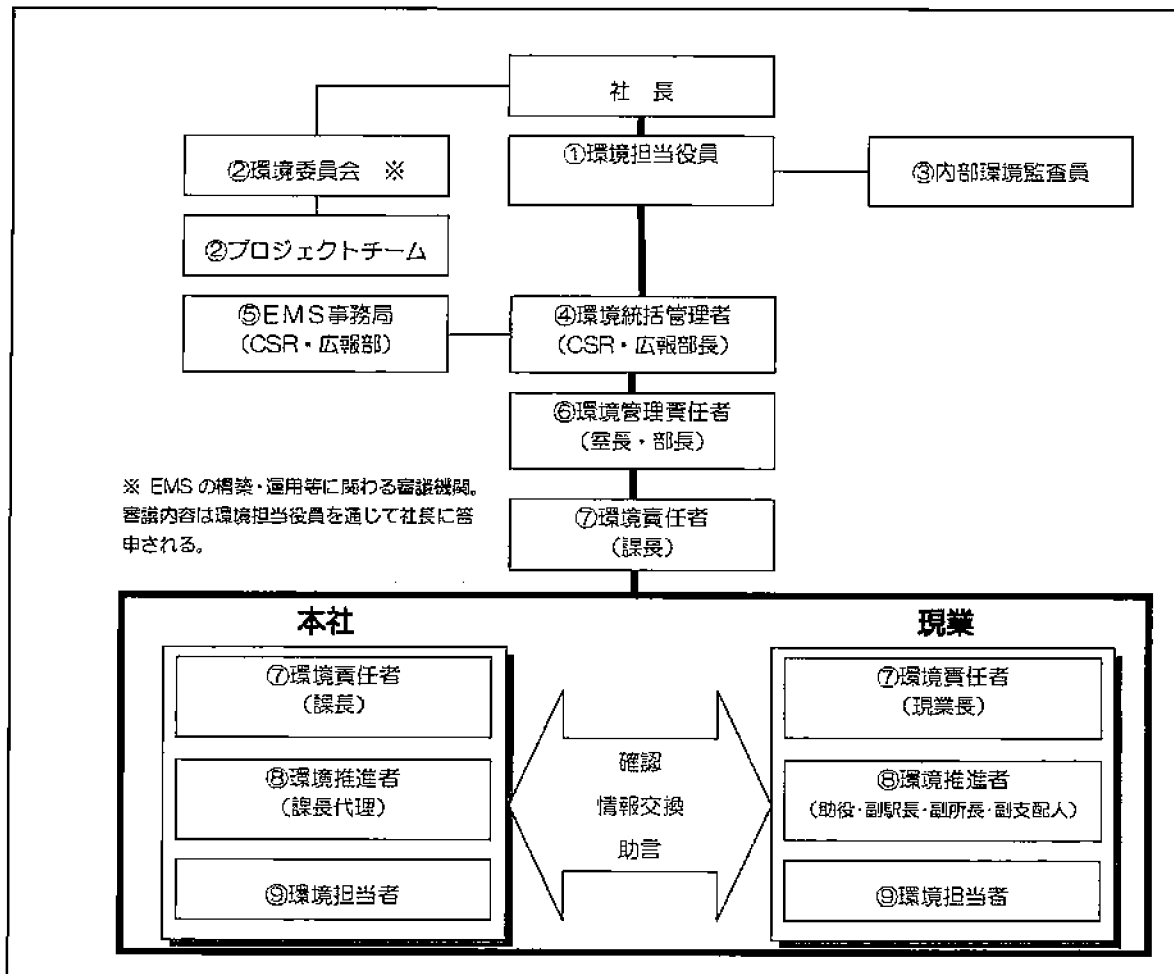
(1) 温室効果ガス排出量削減に向けた方針

2010年度からは小田急グループCSRを体系化し、「環境に配慮した取組の推進」を「3つの重点分野」のひとつに位置づけ、環境に配慮した事業活動をより一層推進しています。地球温暖化対策としては、現在運用している環境マネジメントシステムの中に、エネルギー使用の合理化を図るための管理体制を整備するとともに、省エネ法で求められている、「対前年度比1%以上のエネルギー消費原単位の低減」について、エネルギー使用の効率化等により温室効果ガスの排出の削減を図ります。

(2) 削減対策実施状況の適切な進行管理（PDCAサイクル）を行うための方針

当社では、2010年10月から、環境活動を進めていく上で必要な基本的な事項を社則として定め、2015年度からは環境マネジメントシステム（EMS）を運用しています。さらに、2015年度からは、環境中期目標および中期経営計画の重点課題や業務方針に基づき、環境年度目標を毎年度設定し、PDCAサイクルにて展開しています。

2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制



3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量等

ア 基準排出量と目標排出量（(実)は実排出量を、(調)は調整後排出量を示す。以下同じ。）

		1、2、4号該当者等		3号該当者等		
基準	年度	2018				年度
目標	年度	2021				年度
基準	排出量	(実)	7,680	(実)		
		(調)	7,484 t-CO ₂	(調)	t-CO ₂	
目標	排出量	(実)	7,452	(実)		
		(調)	t-CO ₂	(調)	t-CO ₂	
削減量		(実)	228 t-CO ₂	(実)	t-CO ₂	
内訳	対策実施による削減量	(実)	228 t-CO ₂	(実)	t-CO ₂	
	上記以外の削減量	(実)	0 t-CO ₂	(実)	t-CO ₂	
削減率		(実)	3.0 %	(実)	%	

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等（任意記載）

		1、2、4号該当者等		3号該当者等	
原単位等の活動量		延床面積			
原単位の単位		t-CO ₂ /m ²			
基準年度の値		0.06127			
目標年度の値		0.05945			
削減率		3.0 %		%	

ウ 目標設定に関する説明

当社では、省エネ法で求められている、事業者の目標として「対前年度比1%以上のエネルギー消費原単位の低減」という数値目標を遵守し、エネルギー使用の効率化等により地球温暖化対策に取り組むこととしています。
 エネルギー起源二酸化炭素の排出については事業者の目標に準じ、排出量原単位を年1%削減することとして目標を設定しました。
 原単位の活動量は基準年度から変化しないことを前提に目標排出量を算出しています。
 この目標を達成するため、従来から実施している運用の効率化や高効率機器の導入を引き続き実施し、PDCAサイクルによる削減目標の管理を行います。

(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標（全社目標）（任意記載）

4 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 措置の内容

ア 計画期間に実施する措置の内容 (別表第1から6等を参考に記載してください。)

計 画	(1) 中長期設備投資計画により対前年度比1%以上の低減を目指していく。 ①照明設備の更新：水銀灯および蛍光灯をLED化する。 ②熱需要の変化に対応できる容量の設備を選定して導入する。 ③ヒートポンプ等の高効率熱源設備へ更新する。 (2) 従業員へ環境目標の周知とともに、省エネ教育を実施する。
第1年度	/
第2年度	/
第3年度	/
計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)	/

イ 実施済みの主な温室効果ガスの排出の量の削減対策内容

--	--

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 基準年度までに実施した再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(検討済みの場合は「○」、未検討の場合は「×」を記載し、検討済みの場合は検討結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	検討の有無	検討結果
太陽光	×	
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	×	
その他 ()		
その他 ()		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度
風力太陽光発電	発電能力：5.6kW 導入場所：はるひ野駅	平成16年度
太陽光発電	発電能力：10kW 導入場所：五月台駅	平成17年度
太陽光発電	発電能力：10kW 導入場所：栗平駅	平成17年度
太陽光発電	発電能力：10kW 導入場所：黒川駅	平成17年度
太陽光発電	発電能力：27kW 導入場所：小田急ICTセンター	平成24年度

(3) 基準年度までに実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入・検討状況

(導入済みの場合は「○」、導入検討中の場合は「△」、導入予定なしの場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	導入等の状況	設備等の種類	導入等の状況
電気自動車等への充電設備	○	エネルギー管理システム (FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他 ()	
EV、PHV、FCV	×	その他 ()	

5 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

計 画	他の者の温室効果ガスの排出の抑制に寄与する取組みを行っていますが、定量化できる取組みはありません。
第1年度	
第2年度	
第3年度	

6 その他、地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

計 画	
第1年度	
第2年度	
第3年度	

7 基準年度のエネルギー起源CO₂の排出の量等の実績(1、2号該当者等)

(1) 事業者単位

ア エネルギー起源CO₂の排出量

(実)	7,680	t-CO ₂
(調)	-	

イ 原油換算エネルギー使用量

	4,065	KL
--	-------	----

ウ 事業所の数

	12
--	----

(2) 事業所等単位

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が1,500kl以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量
新百合ヶ丘エルミロード	川崎市麻生区上麻生1-4-1	3,542 t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl以上1,500kl未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量
アコルデ北館	川崎市麻生区万福寺1-17-1	1,161 t-CO ₂
小田急ICTセンター	※※※	1,068 t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂